



越谷市議会議員

のぐち高明通信

～12月定例会・市政報告書～

発行責任者： 無所属会派
『越谷刷新クラブ』所属・2期5年目
越谷市議会議員のぐち高明
〒343-0032
埼玉県越谷市袋山1092-1
Tel:048-919-2772
Mail:otoiwase.noguchitakaaki@gmail.com

2024.3
Vol. 20

※右のQRコードを読み取ると、過去の私の一般質問の動画、ならびに過去の市政報告書が表示されます。通信料につきましては各自個人負担でお願いいたします。なお、動画はWi-Fi環境下での視聴をお勧めします。

12月定例会・市長提出議案

●可決：越谷市職員定数条例の一部を改正する条例制定

《議案の内容》

職員定数を本市全体で3,060人を42名増員し、3,102人とする増員するもの。

議案に対する反対討論として、12月14日に越谷刷新クラブを代表し私が登壇いたしました。

《反対理由》

- ・1人あたり人件費を平均約820万円(福利厚生等含)とすると、年間約3億4,500万円の人件費増額。
- ・県内の本市と同じ中核市(川越市等)比較すると、人口1万人あたりの職員数が多い。(越谷市89.10人、川越市66.2人、川口市78.92人 令和6年1月1日現在)
- ・消防組織の一部事務組合による広域化、市立病院の地方独立行政法人化等の経営形態見直し、公立保育所の民営化、学校給食センターの民間委託等の手法により、職員数は抑制できる。
- ・福田あきら市長就任以降この2年で、越谷市は人口が345,405人から343,308人と、約2,100人の人口減少。
- ・DX・RPA・生成AI等活用などによる人員削減効果が見受けられず、行政経営効率化が進んでいない。
- ・効果を精査せず、単純に職員定数のみを増やすことについて、当然ながら市民の理解は得られない。



《採決結果》

反対 1 3 名		賛成 1 8 名	
越谷刷新クラブ	4	公明党越谷市議団	6
自由民主党越谷市議団※	7	立憲民主党越谷市議団	3
日本維新の会	1	越谷市民ネットワーク	3
こしがや無所属の会	1	共産党越谷市議団	3
※議長は採決に加わりません。		こしがや無所属の会	3



のぐち 高明
過去動画一覧



のぐち 高明
過去市政報告書一覧
Vol.1～ Vol.20

12月定例会を終えて

12月定例会は、市長提出議案を越谷刷新クラブとして計8議案に反対しました。

- ・職員定数条例改正1議案
 - ・越谷市立病院に対する負担金増額補正2議案
 - ・越谷サンシティの指定管理年数を3年間にする1議案
 - ・市長、市議、副市長、教育長、常勤監査委員の4特別職の期末手当を増額する4議案
- の計8議案です。

越谷市は、公共施設等の更新先送りが大変多く、毎年人口が減少する状況において税収減も考えられ、材料費や建築費高騰の影響もあり、より厳しい財政状況になると予想します。

今現在のように、計画ですらのんびり悠長に計画し、無責任に先送り続けていると、続く物価高等による費用高騰で、より厳しい財政状況となります。

今、本市に必要なのは他市では当たり前の「施設複合化等による公共施設の適正計画」と「素早く正しい決断」です。

市民の皆様のいち代表者として、「必要なもの」と「無駄なもの」をこれからも的確にチェックして参ります。ご意見等いつでもお待ちしております。

令和6年3月定例会(予定)

2月26日(月) 開会

3月1日(金)～6日(水)

市政に対する代表質問
市長提出議案に対する質疑
予算決算常任委員会(全体会)

7日(木)～12日(火)

各常任委員会及び
予算決算常任委員会(分科会)

18日(月)

予算決算常任委員会(全体会)
質疑・討論・採決・閉会

**肥大化市政の経営効率化が必須！
市民のために予算を使う市政運営を！**

- 可決:令和5年度越谷市一般会計補正予算(第6号)について
- 可決:令和5年度越谷市病院事業会計補正予算(第1号)について

《議案の内容》

病院事業会計に5億円追加し、令和5年度病院事業会計への負担金を13億円から18億円に増額すること。

以下の理由により、反対しました。

《反対理由》

- ・当初予算の13億円に加えて、追加で市から5億円の支出をするもの
- ・越谷市から越谷市立病院への単年度負担金は過去最大の18億円
- ・経営実態は、令和4年度の約2億5千万円の赤字を大きく上回り、令和5年度は倍近くの約5億円の赤字が見込まれる。そのため赤字補填の負担金と言える。
- ・地方公営企業法一部適用の越谷市立病院では、経営責任者は福田あきら市長。
- ・まだ今年度残り3ヶ月半を残している状況で、資金が枯渇。市長の経営見通しの甘さが原因。
- ・越谷市消防局からの救急車受入率は46.5%。病床ベッドの稼働率は70%以下。
- ・福田市長が掲げている「いのちと暮らしを守る」という方針が達成できているのか甚だ疑問。

- 可決:第97号議案～第100号議案:越谷市特別職(市長・副市長・議員・教育長・常勤監査委員)の期末手当の増額改正することについて

《議案の内容》

特別職の期末手当・勤勉手当の支給割合を4.40から4.50に増額すること。

以下の理由により反対しました。

《反対理由》

- ・越谷市立病院の赤字が大幅に増加。2.5億円→5億円超
- ・市立病院の建て替え費用は500億円から600億円と担当部局は試算済
- ・物価高の中、公共施設(小中学校・保育所・橋梁等)の更新が今後も続くため財政難
- ・この2年間で約34万5,000人から約34万3,000人に約2,000人の人口減少
- ・人口1万人あたりの職員数が、同規模中核市(川越市など)と比べて多い。
- ・市立病院、保育所8施設、小中学校、学校給食センター、市営住宅、越谷サンシティ、道の駅、ゴミ処理施設(リユース)負担金、荻島地区産業団地整備等、過去先送りされた案件に加え、新規の案件の公共施設更新の結論が出ておらず公共施設更新の課題が山積み。
- ・デジタル化による効率化、オンライン市役所、民営化等の行政経営効率化の進捗が乏しい。

→この状況下、特別職の報酬が上がることに、市民の理解は得られない。

《採決結果》

反対 8 名		賛成 2 1 名	
越谷刷新クラブ	4	自由民主党越谷市議団 ※	5
共産党越谷市議団	3	公明党越谷市議団	6
日本維新の会	1	こしがや無所属の会	4
※賛成 2 名退席しました。 議長は採決にわりません。		立憲民主党越谷市議団	3
		越谷市民ネットワーク	3



**越谷市立病院年度赤字5億円超!
消防局から救急車受入率46.5%**

12月定例会・市政に対する一般質問

令和5年12月7日(木)市政に対する一般質問が行われました。市政に対し質問した内容は以下の通りです。

1 公園内行為許可について

- ①使用料について
- ②公園内行為許可後の実地調査について

2 職員の労働環境について

- ①異動希望の把握について
- ②職務専念義務免除の状況について
- ③任用替えについて

3 庭球場について

- ①越谷総合公園庭球場の砂入り人工芝化について
- ②しらこぼと運動公園庭球場の整備について

4 中学校通学区域について

- ①一部の児童のみ通学区域が異なる実態について
- ②通学区域が異なる児童に対する優先的な希望選択制や通学区域の見直しのあり方について



12月定例会市政に対する一般質問の主な内容(抜粋)

3 庭球場について

①越谷総合公園庭球場の砂入り人工芝化について

- ☑ 一番面数の多い総合公園庭球場を砂入り人工芝コート化する。(提案)
- ☑ 照明設備をつけ、夜間まで貸し出すことによって稼働率と使用料収入を増やす。(提案)
- ☑ 予算が足りず整備が進まない庭球場整備費に充当していくことで、早期の整備が進む。

→越谷総合公園庭球場の砂入り人工芝化についての見解は?

A 総合公園庭球場についてはハードコート2面、クレーコート10面の計12面。市の庭球場としては唯一クレーコートのある施設。クレーコートは雨天時からの回復に時間を要するものの、プレイヤーへの膝への負担も少なく、打球の反発が比較的少ないことからラリーが続きやすく、初心者や子供、高齢者の方にも適した庭球場。また、クレーコート10面を有する施設であることから、中学校の部活の試合会場としても活用しており、クレーコートを存続させることは意義のあること。

総合公園庭球場の砂入り人工芝化については、ハードコートが損傷している箇所もあることから、改修時には砂入り人工芝化の検討もしていくので、ご理解賜りたい。(教育長答弁)



②しらこぼと運動公園庭球場の整備について

- ☑ 裂け目がある状況や、ベースライン上に穴が空いている状況などが2年以上続いている。
- ☑ テニス愛好家の市民の方がこの裂け目に足を取られて裂傷を負った。
- ☑ 数多くのプレイヤーが転倒している。
- ☑ テニス愛好家が好む砂入り人工芝コートが、人口規模の割に本市には少なく利用が集中。

→非常に危険な状況であり早急に対策をするべき。しらこぼと運動公園庭球場の整備の現状は?

A 令和4年度の利用者数が延べ4万2,480人、土日の稼働率は99%、庭球場の中でも一番利用されている施設。また、設置から30年以上が経過、コートの損傷している箇所が多く、改修が必要な施設として認識。整備費概算で8,000万円を超える見込み。(8面分)

改修はスポーツ振興くじ助成金等を有効活用し、市の財政負担軽減を図りつつ、市長部局と協議しながら改修する。また川柳公園庭球場もコートの損傷している箇所があり、改修が必要。利用者が安全安心、快適に利用できるよう、優先度の高い施設から順次改修する。(教育長答弁)

★第96号議案「越谷市職員定数条例の一部を改正する条例制定について」

【質疑】

- 同じ中核市、人口同規模の川越市は本市よりも少ない職員数で市民サービスが成り立っている。川越市にできて本市ができないのはなぜか？

→ 川越市は病院や消防(一部事務組合化)がない。本市と一概に比較をすることは難しいが、公立保育所運営は川越市52人、本市61人、若干本市が多い。給食センターは川越市は民間委託。本市は直営。川越市で技能労務職員68人、本市87人。民間委託が進んでいるかどうか大きな川越市との差であると分析している。(行政管理課長)

(再質疑)

- 越谷市立病院の経営形態を変えて地方独立行政法人化することや、消防庁も進めている消防を広域化して一部事務組合等の設置をし事務委託をすることで、消防組織の規模を大きくし、消防体制の強化を図ることや、給食センターを民間委託等することで、職員定数の減員が可能となる。そのような抜本的な組織の在り方についてはどのように検討したか？

→ 要望を各部局から提出、十分その内容を精査をして今回定数の増員を要望している。その中で今の内容についてもしっかりと精査を各部局としている。基本的な考え方として、定員管理については想定される行政需要を踏まえ、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドや既存事業の見直し、事務の合理化、こういったものを徹底した上で業務量に応じた適正な人員体制を整備することを基本に、各部局との調整、対応の検討をした。(行政管理課長)

- 市立病院には電気9名、修繕2名の11名の現業職員がいる。市立病院が今議案で増員を求めているのは事務職員11名。現業職員を外部委託し、事務職員を増やすことは検討したか、しなかった場合はなぜしなかったのか？

→ エネルギーセンター、営繕の職員を外部委託することについて検討はしていない。理由は、当院築年数が非常に長く、機器等も老朽化している。外部委託をして管理をするのが非常に困難、当院を知り尽くした経験のある技術職員の配置が必要。(市立病院庶務課長)

- そもそも越谷市の人口は絶対に減ると市長も断言しているのに、市役所の職員数はなぜ増やさなければいけないのか、市民に理解できる言葉で見解を。

→ 42人の増員の内容としては大きく4点。福祉部門の行政需要の増加、国の施策に対する対応、市民の安心安全の確保、市立病院の経営改善である。

特に市立病院については、赤字体質の脱却ということで、11人の増員のお願いをしているが、進めていく上でどうしても人が必要であるということ。昨年度2億5,000万円の赤字が、今回はさらに多く(約5億円超)見込まれている中で、増員によって赤字の減少、近い将来としては黒字が目指せると考える。

また、現在直営の部分、本当に直営で必要な部分なのか、あるいは切離して民間委託ができる部分はないのか、当然これまでもやってきたが、これまで以上に取り組んで減の定数条例の提案という行政改革も、定数管理ができてくれば考えられる。

今回は今滞っている行政サービスを、どうしても常勤職員でないとできない部分だけの増員の要望。職員全体の定数の管理する上で、今後の行政需要にも対応できるような(行政改革の)取組は、前向きに検討していく。(行財政部長)

※この報告書は、のぐち高明が文章の作成を行っております。なお、イラストはフリー素材です。

のぐち 高明 (2期5年目)

1982年(昭和57年)6月5日生まれ 41歳
野口学院の長男。袋山・大吉殿(できっとな)の孫
しらこぼと幼稚園／越谷市立大袋北小学校／
私立城北中学校／私立城北高等学校(板橋区)／
東京理科大学経営学部／元川口市役所行政職員

